



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

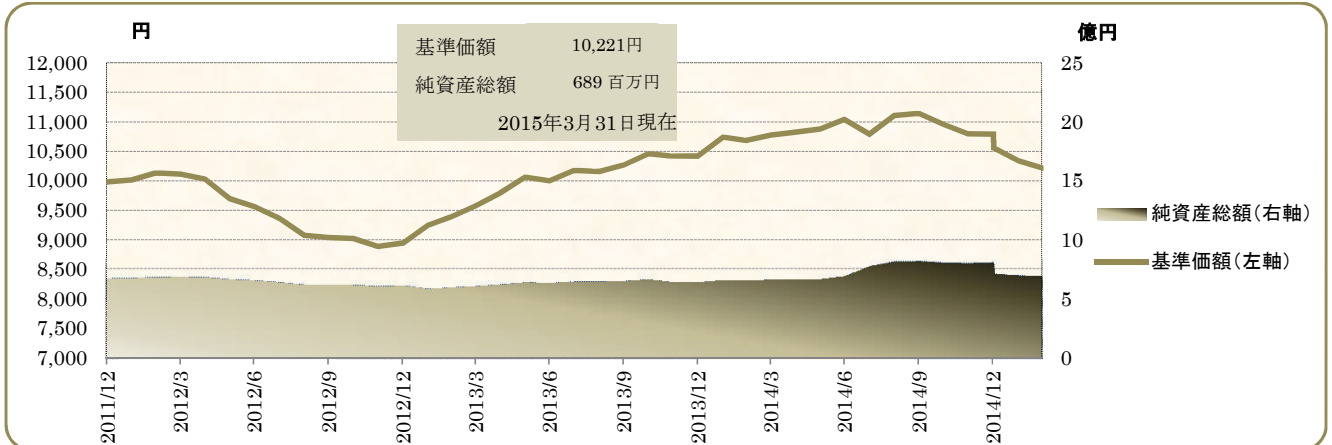
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2015年3月31日

基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

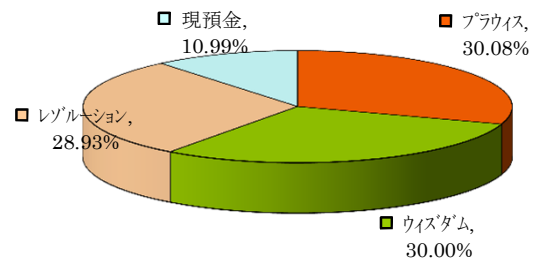
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-2.19%	-2.07%	-1.13%										-5.30%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.05%	-0.55%	0.89%	0.41%	0.55%	1.48%	-2.27%	2.94%	0.34%	-1.73%	-1.44%	-0.02%	3.54%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.32%	1.57%	2.01%	2.27%	2.77%	-0.68%	1.80%	-0.18%	1.03%	1.91%	-0.43%	0.08%	16.51%



運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2015年3月31日	
基準価額:	10,221円	対前月比 -117円
純資産総額:	689百万円	対前月比 -7.8百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別		
基準価額騰落率	3ヶ月	-5.30%
	6ヶ月	-8.30%
設定来	ファンド	2.21%
基準価額騰落率	TOPIX	113.27%
	日経平均	128.61%

投資対象ファンドへの資産配分 (2015年3月31日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
ブラウイス	-2.91%	0.43%	-0.74%										-3.21%
ウィズダム	-1.38%	-1.99%	-0.24%										-3.57%
レゾリューション	-1.92%	-4.43%	-1.60%										-7.77%
アドバンスド	-3.68%	-3.14%	-1.61%										-8.21%
バリエント	-8.54%	-0.43%	-2.08%										-10.84%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月*	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
ブラウイス	2.24%	-0.37%	0.41%	1.08%	0.88%	2.08%	-0.16%	-0.32%	1.01%	-0.04%	-0.24%	-1.41%	5.22%
ウィズダム	0.94%	-0.06%	0.36%	0.81%	0.50%	1.06%	-0.30%	1.17%	0.46%	-0.04%	0.03%	0.33%	5.38%
レゾリューション	6.74%	-0.06%	2.94%	0.52%	1.36%	2.63%	-2.53%	5.02%	1.61%	-3.52%	-0.75%	2.09%	16.76%
アドバンスド	3.59%	1.01%	0.60%	2.15%	1.23%	2.72%	-1.24%	3.30%	-0.11%	0.03%	-0.40%	1.06%	14.71%
バリエント	7.64%	0.92%	3.59%	3.63%	1.89%	5.28%	-2.17%	2.07%	0.65%	-0.96%	-2.24%	-1.19%	20.27%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
ブラウイス	2.93%	1.07%	1.65%	3.95%	3.00%	-0.09%	1.11%	-0.32%	0.23%	0.95%	-1.04%	-0.06%	14.08%
ウィズダム	2.59%	2.09%	0.71%	2.09%	2.03%	1.19%	1.36%	0.44%	1.06%	0.73%	-0.15%	-0.01%	15.05%
レゾリューション	5.82%	2.76%	4.78%	2.00%	4.83%	-1.97%	4.08%	0.46%	2.94%	4.90%	1.06%	1.46%	38.27%
アドバンスド	7.06%	6.89%	2.79%	6.39%	5.21%	4.71%	4.15%	0.84%	1.20%	1.91%	-2.71%	1.61%	47.65%
バリエント	11.36%	2.57%	1.43%	14.44%	7.46%	1.93%	3.77%	0.67%	0.51%	3.33%	-5.39%	3.07%	53.66%

* 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1(以下「HFS」という)にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。

* バリエントの騰落率は、2014年6月以前はJPY-Sクラス、2014年7月以降はJPY-Fクラスの騰落率です。アドバンスドの騰落率は、2014年6月以前及び2014年12月以降はJPY-Sクラス、2014年7月～11月はJPY-Fクラスの騰落率です。年初来の収益率は月次収益率を時間加重したものです。



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

相場動向

3月の株式相場は、日経平均で2.18%上昇の19,206.99円、TOPIXで1.26%上昇の1,543.11ptとなりました。大手企業の賃上げや企業業績の拡大などを手掛かりに、緩やかな上昇となりました。

上旬は、6日にECBの量的緩和策実施の決定を好感し上昇するも、9日には市場予想を上回る米雇用統計で早期の米利上げ観測が浮上し米株安となったことを受け下落するなど、一進一退の動きとなりました。

中旬は、18日の春闘一斉回答日に向け大手企業の賃上げ期待が高まったことや、ファナックなど複数の大手企業に株主との対話姿勢や株主還元強化の動きが見られたことを好感して上昇しました。

下旬は、23日ザラ場に日経平均が19,778円と20,000円に迫ったものの、米耐久財受注の悪化で米景気への先行き不安が浮上した

ことや高値警戒感から利益確定売りが優勢となり、下落しました。

東証一部の売買代金は、月を通じて2兆円を上回る高水準となりました。

需給面では、海外投資家が大幅な買い越しとなったのに対し、個人投資家や信託銀行、投資信託が売り越しとなりました。信託銀行は11カ月ぶりの売り越しとなりました。

セクター別騰落率では、その他製品、医薬品、サービス業、小売業、食料品が上位となり、鉄鋼、鉱業、パルプ・紙、水産・農林業、海運業が下位となりました。

ファクター面では、配当ファクターや低ボラティリティが有効だった一方、PBR、PER等のバリュファクターは機能しませんでした。

組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

【ブラウイス】

〈ファンド運用状況〉

3月の運用成績はJPYクラスで-0.74%となりました。ショートしていた薬品株が、開発中の試験結果を受けて大幅に上昇したことや、サービスセクターのペアトレードのパフォーマンスが悪化したことがマイナスの要因としてあげられます。

セクター別の損益は小売り、不動産セクターでプラスとなり、医薬品、サービス、鉄鋼、銀行セクターでマイナスとなりました。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

4月の株式市場は上値の重い相場展開を想定します。年初来の上昇により、日本株の相対的な割安感が後退したことに加えて、ドル高、原油安の影響による米国の企業業績に対する懸念も高まってきていることから、利益確定売りに押されやすいと考えます。一方で、GPIFを中心とした公的資金の資金流入は今後も続くと思定され、下値も限定的と思われる。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

【ウィズダム】

〈ファンド運用状況〉

3月の運用成績はJPY-Fクラスで-0.24%でした。ディフェンシブセクターへの資金シフトは継続しており、グローバルに事業展開している成長銘柄をこれらセクター内のロングサイドに組み入れることでプラスのパフォーマンス確保に努めました。開発中の治療薬で良好な結果が報告された医薬品株（ショートポジション）が上昇するなど個別銘柄要因でマイナスとなりました。

個別銘柄レベルでは、ロングポジションでセブン&アイHD（3382）、味の素（2802）、ショートポジションでは太陽日酸（4091）、JR西日本（9021）がプラス収益に寄与しました。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

4月の株式市場は緩やかな上昇を予想します。4月下旬から始まる国内企業の本決算では例年通り保守的な業績ガイダンスが発表されると予想されますが、株主総会向け株主還元策の積極化や公的資金の国内債券から国内株式への資金シフトが引き続き期待されることから底堅い相場展開を予想します。リスク要因としては、ギリシャの金融支援のための改革策に対する懸念や米国景気が予想外に悪化することです。

今後の投資戦略につきましては、クオンツモデルとトップアナリストによる投資評価の双方を活用し、銘柄選択により安定的な収益を目指します。

【レゾリューション】

〈ファンド運用状況〉

3月の株式市場は、前月に続き小型株の弱さが目立ち、大型株中心の上昇相場となりました。

小型株については、高ROE株や低信用リスク株、値高株などの優良株属性が上昇となりました。

ポートフォリオは、電機、情報通信、サービスなどのセクターをオーバーウェイトし、化学、小売セクターをアンダーウェイトしました。また、小型株ロング、大型株ショートの状態を維持しました。

足元で業績底打ちの見えたアスクル（2678）や業績好調な太陽誘電（6976）のロングや、需給で買われていた高バリュエーション銘柄の一部ショートがプラス寄与となりました。一方で、バリュエーション低下が見られたロングや一部高バリュエーション銘柄のショートがマイナス寄与となりました。

全体として、先月に続く一部集中的な銘柄選択に含まれないロング銘柄が多いこと、高バリュエーション銘柄のショートが足を引っ張ったことから、パフォーマンスの確保に至りませんでした。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

需給要因による上昇相場が続き、売買の対象が一部銘柄に集中している傾向が続いていますが、やや変化の兆しも見えてきました。

小型株については、全体として閑散としており、業種内、業種間のバリュエーション格差が目立っています。

割安株を買う動きに乏しいものの、一方で、銘柄ローテーションを意識することによるバリュエーション修正が期待できる局面と考えます。業績の反転や来期以降の継続的な収益拡大に注目が集まると見込まれます。

今後、来期を意識した銘柄選択に視点が移るとともに、一方通行の銘柄選択から個別業績見合いの銘柄選択に変化が生じ、相対的な割安感の強い小型株に注目が集まることを想定します。

引き続き、来期業績を考慮した、定性的なプレミアム付与が可能なグロース性を重視した銘柄選別を行います。

業績モメンタムの変化に留意し、継続した業績拡大余地の大きい割安銘柄の組入を行います。成長力や競争力といった中期的な視点により割安銘柄と割高銘柄の選別を進めます。

投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユーケイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社
	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号
	加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 http://hedgefund-sec.com/
	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号
	加入協会:日本証券業協会



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

ご留意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書(交付目論見書)をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書(交付目論見書)をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。